



～小・中学校における防災教育支援「出前講座」を実施しました～

福島県二本松土木事務所業務課
技師 山本 恭平

施工場所: 県北建設事務所管内

1. はじめに

数年前に新語・流行語大賞にも選ばれ、毎年各地で被害状況をよく耳にする「ゲリラ豪雨」。猛烈な局地的大雨は、河川の急激な水位上昇や洪水氾濫、土砂災害をも引き起こす。

本県では、平成21年度より「集中豪雨から命を守るプロジェクト」のソフト対策の取組の一つとして、小・中学生を対象に「出前講座」を実施。

小・中学校における防災教育支援として、未来を担う子供たちが、これらの事前に発生場所や時刻を予測できない自然災害から、自らの命を守るための知識を身につけることを目的に実施した。



2. 活動の状況

依頼件数・受講人数一覧表

	平成21～23年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
福島県内件数	12 件	14 件	5 件	64 件
県北建設管内件数	0 件	4 件	1 件	16 件
県北建設管内受講人数	—	812名	57名	1,647名

平成27年度は県北建設事務所管内では小学1年生から中学3年生を対象に実施。

主たる学年は小学5年生。(16件中13件)理科の授業で自然災害を学習しており、専門知識による学習の場が要求されている。

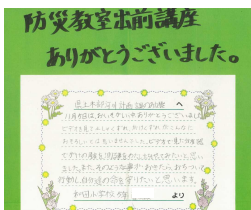
講座の内容(45分間)



3. 成果

《聞く側の成果》

- ・避難場所が分かってよかった。
- ・模型の実験が分かりやすかった。
- ・災害時は落ち着いて行動し自分の命を守りたい。
- ・今日習ったことを家族にも伝えたい。



《伝える側の成果》

- 飽きさせない工夫
- ・質問や問題の投げかけ
- ・インパクトのある写真や動画
- 講師の育成
- ・知識の向上・スライドの作成
- ・時間配分・意見交換



4. おわりに

講座後に学校からいただいた感想文で多く目にした言葉は、「災害に備えて準備をしておきたい」であった。普段からの「心構え」「備え」を行っておくことは、災害時に自ら身を守る行動ができる他、判断や行動に余裕が生まれることで、家族や他者への手助けへも発展する。

また、「帰ったら家族にも伝えたいです」の言葉も見受けられた。これは、この講座により生徒たちが単なる知識だけでなく、周囲への思いやりや優しさ、命の大切さも学んでくれたものと受けとめられるであろう。